

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年10月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年9月11日の日蓮大聖人御難会、御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「思い切る信心、これがすべて」

人として生まれた目的は何か。妙法を信ずる意義は何なのか。これが私たちの一大事である。信心の目的は自己の成仏と広宣流布である。これは思い切らねば進めない。「思い切る」とは、迷いとためらいを断ち切る、心を決めることである。大聖人は、熱原法難による退転の要因を信徒らに示された。それは臆病、教えを忘れる、目先の利害に迷う、疑いである。成仏の秘訣は、勇気を持ち、大聖人の教えを正しく理解し胸に刻み、目先の利害に惑わず、一生成仏という大目的を忘れないことが鍵なのである。思い切る以外この鍵は得られない。思い切った時、目の前がぱっと開け、寂光が現れる。大聖人は仰せになった。このことを「石を金と取りかえ、糞を米に替える証である」(御書1056 趣意)と。思い切る信心に徹していこう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その26)

平成2年7月21日、学会の夏期講開催にあたり池田・秋谷の両氏は総本山に登山し、日頭上人にお目通りをした。その折、日頭上人は両氏に対し、昭和53年6月と11月の池田氏と学会首脳との反省が、現在の宗門と学会との協調関係の原点である旨を諭された。そして先の連絡会議における学会側の一方的な態度にふれられ、「これはどのようなことか」と尋ねられたが、これに対し秋谷氏は苦しまぎれの弁解をなすのみであった。ついで「法主の発言封じ」の件について注意をされたが、秋谷氏は反省の色もなく抗弁した。その態度をうけ日頭上人は、「法主の発言に対する連絡会議での学会の態度は憍慢謗法(きょうまんほうぼう)です」と、たしなめられたのであった。(次回、御大会でのお目通り)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(言語道断の意味を知る)

一般的に「言語道断」という言葉は、「常識を逸脱したこと、もつてのほか」という意味で使われる。本来は仏教の言葉で、「言語の道絶えて言説すべからず」、つまり仏法が説く妙理、究極の真理は言葉では表現できず、思索がおよばないことを示している。言葉を代えれば「不可思議」である。正しい仏法は単なる精神修養や気休めではない。人間のその生き方、人の幸・不幸に係わる重大な要素、大きな価値がこめられている。日蓮大聖人の仏法は、真に一切の人間の苦悩を喜びに変え、大難を乗り越え、娑婆の忍土を寂光の楽土へと転換させる。妙法の信仰には言語道断の実証がましますのである。妙法を唱えるところ、滅せぬ罪はなく、来ない幸福はなく、深妙の境界が開かれる。ともに妙法を信受しようではないか。